

# 令和3年度 学校評価シート

学校名： 和歌山商業高等学校

学校長名： 中村 憲司

目指す学校像	1 真理、正義、勤労、礼節を重んじ、良き社会人、力強い職業人を育成する学校 2 時代の変化に対応し、地域社会を活性化する商業教育を実践するとともに、和歌山県の商業教育をリードする学校 3 普通教科の基礎学力とともに商業の専門的・実践的な知識・技能の習得を通じて生徒の進路実現を保障する学校
育てたい生徒像	1 時代の変化に柔軟に対応しうる豊かな感性と自ら学ぶ意欲を持ち、何事にも主体的に行動できる生徒 2 知・徳・体のバランスがとれ、資格取得や部活動、自分の進路実現に向けて心と身体を鍛えられる生徒 3 地域や社会の発展を担う人財であることを認識するとともに、伝統文化を大切にし、将来にわたって地域に貢献できる生徒

中期的な目標	①新学習指導要領実施における新カリキュラムの段階的実施とカリキュラムマネジメントの確立 ②学校のICT環境の整備と教職員のICTスキルの向上 ③アクティブラーニング(AL)の推進 ④学校組織のスリム化と高機能化 ⑤PDC Aサイクルを取り入れた学校組織マネジメントの確立と自立的な教職員集団の育成 ⑥学校をコアにした地域のコンソーシアムの構築
結果と改善 方策の公表の方法	本校のホームページに掲載

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

本年度の重点目標	1 基礎学力の定着及びICTの活用による主体的・対話的で深い学びの実現
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 生徒の希望進路を実現させる取組の充実(進学、公務員の合格者数の増加、就職希望者全員内定、上級資格や各種検定取得) 3 部活動をはじめ学校行事、生徒会活動の活性化による社会性、協調性、道徳心の育成、積極的な地域との協働 4 挨拶の励行、規範意識の高揚と安全で安心な学校運営

(注) 1 重点目標は3~4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					学校関係者評価		
重点目標					令和4年3月1日実施		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	生徒の授業参加については概ね積極的であるが、学習集団内の学力格差が大きい。全体的に家庭学習時間が少ないのが課題である。学習姿勢は指導教員に依存的であり、主体的な学習姿勢ができていない。	①生徒の興味・関心を高める授業改善が積極的に展開されているか。 ②ICTやALを取り入れた授業改善がなされているか。 ③家庭学習促進の指導をしているか。	①生徒による授業評価の実施と、その活用による授業改善を行う。 ②積極的に公開授業を行い、ICT機器の活用方法やALの手法を研究し授業改善を図る。 ③生徒自らが学ぶ体験型学習、課題解決型学習を充実させ、生徒の学習意欲、学力の向上を図る。 ④ALを取り入れた授業改善研修の実施 ④宿題を意識的に課すことにより、予習・復習も含め家庭学習の時間を確保する。	①生徒による年1回の授業評価と教員の自己評価を実施し、その改善・検証会議の実施 ②ICT機器を活用した授業改善のための研修の実施 ③ALを取り入れた授業改善研修の実施 ④年1回以上各教員の公開授業の実施	①生徒の授業アンケートでは、80%以上の生徒が授業について肯定的な回答をしている。 ②オンライン授業の配信方法について校内で研修を行い、分散登校期間中に多数のオンライン授業を実施した。 ③生徒の「授業評価」においても、ALやグループ学習について肯定的な意見が多いが、コロナ禍によってグループ学習が実施しにくい状況であり、授業形態の工夫が難しい状況になっている。 ③④コロナ禍による学校行事の見直しにともない、今年度は公開授業を実施できなかった。代替措置として、新学習指導要領実施に向けた評価方法について、各教科で教科会議を行った。	A	①生徒の現状を考えた授業展開や基礎学力向上策を継続して考える。学力状況の正確な把握が必要である。 ②新学習指導要領実施にともなう授業改善や評価方法の研究を今後も実施していく。また、ICT機器の活用などで生徒の現状をふまえた効果的な授業方法の検討が必要である。 ③宿題を意識的に課し、予習・復習の機会を増やすコンテンツの開発やICT機器の積極的活用など、指導を充実させる必要がある。
2	進路意識が低く、将来を見据えた行動ができる生徒が少ない現状である。結果として、進学先・就職先においても安易に進路決定をしてしまう傾向がある。1年次より先を見据えた進路指導そして自らの将来像を描くことが課題である。	①1年次の総合的な探求の時間「キャリアデザイン」で、1年生より進路意識を育てる取組ができたか。 ②コース選択や進路先に関する情報を提供できたか。 ③2年次よりのコース制の選択により、資格検定取得や進路決定に繋がったか。	①希望進路実現のために進学、就職に関して丁寧な個別指導と補習のサポートを充実させる。 ②進路指導部主催または卒業生に協力を依頼し、ガイダンスを実施する。 ③進学・就職において事後指導を徹底し、次の進路先への高い意識を持たせる。 ④連携協定を結んでいる大学との交流を深め、質の高い学びを提供する。	①国立公立大学・看護・保育系学校進学希望者への指導の充実 ②公務員希望者への指導の充実と受験者数の増加 ③上級検定取得・資格取得の20%増加を実現 ④就職内定率100%の実現 ⑤卒業生や地域や企業の人材を活用してキャリア意識育成の取組を昨年より増加	①2月24日時点で国立公立大学2名、看護医療系大学29名、看護医療系専門学校17名、関西中堅・難関私立大学延べ31名など進学指導を充実した成果が現れた。 ②公務員希望者は2名合格した。 ③1級3種目以上の合格者は69名と大幅に増加し、成果を上げた。 ④就職内定率は100%を実現した。 ⑤卒業生に講演を依頼し、進学・就職において現役生に有益な情報を提供することができた。現役生の進路選択をする意志決定に良い影響を与えた。	A	①③④進路LHRの内容を刷新し、コース選択や検定取得で3年生から1・2年生に向けてアドバイスをもらう。また今年実施したように、卒業生または現役合格・内定を得た先輩との相談会を全ての学年にまで対象を広げるなど早期の意識付けによる進路探求の取り組みを強化することが必要である。 ①②大学や公務員合格に向けて、補習を充実させる。
3	集団生活での自分の居場所をつくるのが苦手な生徒が増えてきており、学校に行きづらい生徒も増えてきている。体育クラブへの参加生徒は昨年度との比較では増加傾向にある。	①体育祭や文化祭などの学校行事に生徒が積極的に取り組むことができたか。 ②生徒会活動や部活動に参加する生徒を増やせたか。 ③校内及び学校周辺の通学路の清掃が行われたか。	①学校行事を通して、生徒相互の連帯感や、思いやり、自主性、自立性を養う視点を持ち、クラス担任を中心に、効果的な指導を充実させる。 ②生徒会活動や部活動への積極的な参加を働きかけ、人間関係形成能力を育て、また、部活動での成果を積極的に広報する。 ③校内及び学校周辺の通学路等の清掃活動を生徒を中心に進行。	①保護者による学校評価の実施と改善・検証会議の実施 ②挨拶する生徒の増加 ③生徒会執行部との年1回話し合いの実施 ④年度末に運動部、文化部ともに加入率70%以上を維持する。 ⑤県大会・近畿大会・全国大会への出場及び結果の昨年以上の実績に上げる。	①学校行事については、3年生を中心に積極的に取り組み、アンケート結果では約85%が肯定的である。 ②授業開始時と終了時の挨拶の指導を充実させた結果、規律ある授業と学校生活が実現でき、生徒と保護者が学校の指導に対して概ね肯定的にとらえてくれている。 ③生徒会執行部と、年度内に一度実施予定である。 ④今年度、部活動の大会等は縮小・減少したが生徒・保護者ともに約90%以上が活動に肯定的である。	B	①体育祭や文化祭などの学校行事には、生徒のコミュニケーション力や協力して課題を解決する力を育てる絶好の機会と捉え、指導や支援を強化する。 ②挨拶指導は励行指導はもちろんのこと、授業開始時と終了時の指導をさらに充実させる。 ③④部活動もさらに積極的な参加を呼びかけ、体験入部などの機会を増やして行く。また、成果の広報を強化する。
4	明るく元気な挨拶が出来る生徒が増えてきているが、更に増やしていきたい。 身だしなみ等、日頃からルールを守るという規範意識が低い生徒も。 遅刻生徒への指導が不十分、遅刻減少に向けての指導の徹底。 通学マナー(交通ルール)の更に向上させる。	①全校生徒が、誰に対しても挨拶が出来るよう指導できたか。 ②風紀ASS以外の日頃から身だしなみ等のルールを遵守出来ているか。 ③年間の遅刻回数の減少。 ④交通事故や苦情が減少したか。	①挨拶の励行と、授業開始と終了時の挨拶の指導を充実させる。全教職員から積極的に挨拶を行う。 ②全教職員が、日頃から身だしなみ等のルールが守られているか、積極的に生徒と関わり指導する。 ③遅刻回数削減の状況。 ④遅刻報告カードを活用し、度重なる遅刻については、担任・生徒・保護者と面談等を行い、遅刻減少へ指導していく。 ④毎日の校門指導及び定期的な街頭指導を行う。警察等外部教育力を活用し生徒の意識向上を図る。	①校内での挨拶の状況。 ②日頃から身だしなみ等のルールが守られている。 ③遅刻回数の状況。 ④通学時の事故及び通学マナーの苦情が少なくなる。	①朝の校門での挨拶・校内での挨拶について、以前より積極的に出来る生徒が減少している。また、挨拶にも元気がない。 ②身だしなみ等について、日頃から声かけをしながら指導しているが、ルールが守れない生徒が増えてきている。 ③遅刻についても増加傾向にある。特に同一人物が常習的に遅刻してくる。継続的な指導が必要である。 ④通学時の自転車事故については減少し、苦情も減少したが、ルール違反やマナー違反はまだある。 ⑤学校周辺の清掃活動を5月より月1回実施した。	B	①挨拶については、教員より積極的に挨拶し、以前のように元気に挨拶が出来る集団にしていきたい。 ②身だしなみについては、全教職員で取り組み、統一した指導で改善していきたい。規範意識の向上。 ③遅刻については、常習的に遅刻する生徒について、担任と本人・保護者を交えて改善に努めたい。 ④今年度のセーフティーカード違反別警告件数報告等をもとに、改善に向けて生徒の指導が必要である。

学校関係者からの意見・要望・評価等	①先生方、生徒達が感染対策に尽力し安心・安全で充実した学校生活を送っていることがアンケート結果からわかる。 ②ジェンダーレスや多様性が注目される今、生徒が納得してその伝統を守り伝えていくか見直すかの見極めが大切である。 ③放課後の学習ボランティア、読み聞かせなど、コロナ禍ではあるが、工夫した中で実施できればと思っている。 ④昨年度との比較で保護者の評価はやや下方修正であるが、生徒は上方修正となっている。保護者への学校生活情報の伝える方法、工夫が必要である。 ⑤コロナ禍で学校運営の難しさを考えれば今回の学校評価は概ね達成していることは評価できる。 ⑥本年度は9月からの分散授業に伴い、一人1台パソコンによるオンライン授業の実施、動画配信、課題の配布により家庭学習の生徒の授業を補っている。授業や教育内容を精査することにより、指導範囲は全て終えることができています。 ⑦本年度から全国に先駆けて実施された就職複数応募制は大きな問題なく終了できた。今後も趣旨を十分生徒に理解させた上で、取り組ませたい。
-------------------	---